

## あとがき

3か年計画の研究テーマ「学びにつながるカリキュラム・マネジメント」の2年目が終了しました。今年度は、学習指導要領の内容を教科ごとに本校の学習内容と照らし合わせることで、単元配列表の作成を更に進めてまいりました。学習指導要領の段階ごとの内容を深掘りし、段階に応じた単元の配列を検討する機会を得ることができたので、次のステップとして、それぞれの学年が教科の系統性を考え、年間指導計画に反映させたものを実証していくこととなります。これまでの研究の積み重ねは、カリキュラム・マネジメントの構築そのものであります。これから本校の学習内容の柱となっていくものとして、更に丁寧な整理を行い、実のある指導計画へと繋げていきたいと考えます。

カリキュラム・マネジメントの構築を進める一方で、本校は昨年度より「知的障害の状況や程度に応じた指導の在り方の研究」の事業における研究指定校として、他校に先駆けて教育課程の改革を行ってきました。具体的には、今年度、小学部5、6年に教科「生活」を設置しています。実際の学習場面では、例えば、小学部6年の「つくってあそぼう 風で走る車」は、学習指導要領【シ ものの仕組みと働き】に関わる学習単元として設定されました。うちわをあおいで起こした風の力で、手作りの車を走らせるという活動は、デジタル時代に育つ児童にはアナログな取組みであり、活動時の反応について危惧されるところもありましたが、実際の活動場面では、どのように風を当てると車が動くのか、という視点をもちつつ、試行錯誤しながら興味・関心を膨らませている姿が見られました。このような学習に臨む様子は、次年度からスタートする中学部における理科での学習に接続していく取組みとして、期待しています。

今年度の生活・理科・社会の研究の中でも述べられていますが、「理科」における実験的な活動は変化を捉えやすいため、児童・生徒の興味を引きやすいところがあります。しかし「社会」は、知的障害のある児童・生徒が苦手とする、考察や表現するという学習態度と共に、実際には見えにくい「分布」「変化」「工夫」などの抽象的な概念の活用が求められる教科でもあるため、授業実践には相応の困難さが予想されます。中学部の教科「社会」における学習内容の展開については、来年度の研究に託されているところです。

最後になりましたが、今年度も校内研究を中心に担ってくださった研究・研修部の皆さんと、単元配列表のベースを短期間で整えることに尽力された主幹教諭の皆さんに心から労いの言葉を送ります。お疲れ様でした。

令和6年3月  
副校長 渡部 早苗